

佳作

未来に繋ぐ

秋田県東成瀬村立東成瀬中学校

3年 富田 獅温

僕は弱いです。大変情けないことですが、自分でも気持ちの弱さを充分自覚しています。だから僕は未来の自分にこう伝えたいです。

「もう、おまえは強くなったのか？」

僕は小規模校の野球部に所属していました。小規模校には良い点と課題点があると僕は思います。

まず、小規模校の良い点は、生徒同士の絆が深まることです。全校生徒が兄弟のように仲が良いです。しかし、その一方で課題もあります。それを一番に感じるのが部活動です。

僕たちの学校では、生徒数が少ないため、部活動で困ることがあります。それは、部員数が少ないため、試合に出場できるかどうかのぎりぎりの人数で部活動を行っていることです。誰か一人でも怪我をすると、試合を棄権しなければいけません。だから僕たちはいつもハラハラしながら練習をしています。

また、大会に出場するための選手数に達することができないため、近隣の学校と合同チームを組み、出場することもあります。実際、僕の所属している野球部は昨年度、合同チームで、大会に出場していました。

合同チームには独自の良さがあります。それはお互いの良さを生かし、力を合わせて相手チームと対戦することができることです。その高揚感は何ともいえないものです。また、野球に対する自分の情熱をいつも感じるができます。

しかし、その一方で、合同チームは一緒に練習できる日が限られており、チームプレーの面で不安を感じながら試合に臨まなければいけないというデメリットもあります。それでも、僕たちは昨年度、合同チームで郡市で優勝することができました。

その時、僕は中2でした。合同チームには上級生がたくさんいたので、試合に出場するときは、それほどプレッシャーを感じることもありませんでした。

ところが、今年の4月からそのような状況は一変しました。それというのも、今年度、1年生が野球部に4人、入部してくれたので、自校で野球チームが組めるようになったからです。これはとても嬉しいことでした。

しかし、その一方で、僕は密かにプレッシャーを感じました。その理由は、キャプテンとして、後輩たちをリードする立場になったからです。しかも3年

生は僕一人だったので、部活動のことで同級生に相談することもできません。不安感を取り除くことができないまま時間はどんどん過ぎました。

僕は、自分の努力する姿を後輩に先頭に立って見せる立場にいたのですが、それができませんでした。小学校の頃からずっと知っている後輩に対して、そうした泥臭い姿を見せることがなんとなく恥ずかしく思えたからです。せっかく自校で出場できる機会なのに、僕は自分の心の弱さから、野球部キャプテンとして後輩をリードすることができませんでした。

また、自主練もどうかと聞かれれば、正直な話、一生懸命取り組んでいたか自分でも自信をもって答えることができません。だから、部活動で「全県優勝」という目標を掲げていたものの、果たしてこんな大きな目標を、たいした努力をしていない自分が口にして良いのか、という自信すらない状態でした。

こうした負の要素が積み重なっていたせいか、練習試合でも、僕はヒットも打てませんでした。僕は後輩をリードしたいと常に思っていたのですが、逆に後輩から助けられている場面が多かったように思います。

そんなモヤモヤした気持ちを消すことができないまま、僕はついに夏の総体を迎えてしまいました。そして気付くと、僕は最終回のバッターボックスに立っていました。その時のことを僕は今でも鮮明に覚えています。

それは全てが夢の中の出来事のようにでした。ピッチャーが放ったボールの流れやバットにボールがあたる瞬間まで、全てがコマ送りで時間がゆっくりと流れていきました。しかし、ボールがファーストに送られ、アウトになると時間が急に倍速で進みました。

相手チームの選手が、大声で勝利を喜んでいます。僕は、後輩に悔しさを悟られないように苦笑いをしていましたが、心の中は試合に負けた悔しさ、そして一生懸命練習に取り組まなかった後悔でいっぱいでした。僕は自分に負けていたんだな——と思いました。

部活動を引退してから、3カ月経ちました。僕は今、受験に向けて勉強に頑張っています。努力する大切さを、部活動を引退した後に気付いたことはとても残念なことですが、この経験を未来の自分に生かしていきたいと僕は思っています。

中学校生活の部活動は、ほろ苦い思い出となりましたが、これからは未来の自分にバトンを渡せるよう、努力し続けたいです。